

追補

## 研究論文一覧

### 【本研究に関連する論文（\*：審査論文）】

#### 第2章

- \* 1 「地域固有の生活価値」の変化からみた住環境整備事業の評価に関する研究  
—北九州市 K 地区における小集落地区改良事業のケーススタディー—  
日本建築学会計画系論文集 第 513 号、pp.197-204、1998 年 11 月  
白石昌之、横山俊祐
  
- 2 整備の概要と物的環境の変容  
—住環境整備事業の評価に関する研究（1）—  
日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 F-1、pp.533-534、1996 年 9 月  
越智田優司、横山俊祐、白石昌之
  
- 3 住戸近傍空間の使われ方と近隣関係の変容  
—住環境整備事業の評価に関する研究（2）—  
日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集 F-1、pp.535-536、1996 年 9 月  
白石昌之、横山俊祐、越智田優司
  
- 4 物的価値の変化に対する住民の評価  
—住環境整備事業の評価に関する研究（3）—  
日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 F-1、pp.459-460、1997 年 9 月  
川東好史、横山俊祐、白石昌之
  
- 5 生活価値の変化に対する住民の評価  
—住環境整備事業の評価に関する研究（4）—  
日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 F-1、pp.461-462、1997 年 9 月  
白石昌之、横山俊祐、川東好史

#### 第3章

- \* 6 住環境整備事業からまちづくり活動への漸進的展開にみるワークショップの課題  
—筑紫野市 S 地区における住環境整備事業のケーススタディー—  
日本建築学会計画系論文集 第 536 号、pp.199-206、2000 年 10 月  
白石昌之、横山俊祐、武藤剛
  
- 7 住環境整備における事業手法とワークショップの課題  
—住環境整備事業の評価に関する研究（5）—  
日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集 F-1、pp.287-288、1998 年 9 月  
白石昌之、横山俊祐

### 第3章

- 9 ワークショップを通じた住民一人ひとりのまちづくり意識の差異と変容  
ー住環境整備事業の評価に関する研究(6)  
日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集 F-1、pp.621-622、1999年9月  
白石昌之、横山俊祐、武藤剛
- 10 ワークショップによる住環境整備がもたらすコミュニティ活動の変化  
ー住環境整備事業の評価に関する研究(7)  
日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集 F-1、pp.623-624、1999年9月  
武藤剛、横山俊祐、白石昌之

### 第4章

- \* (1) 「地域固有の生活価値」の変化からみた住環境整備事業の評価に関する研究  
ー北九州市K地区における小集落地区改良事業のケーススタディー  
日本建築学会計画系論文集 第513号、pp.197-204、1998年11月  
白石昌之、横山俊祐
- \* (6) 住環境整備事業からまちづくり活動への漸進的展開にみるワークショップの課題  
ー筑紫野市S地区における住環境整備事業のケーススタディー  
日本建築学会計画系論文集 第536号、pp.199-206、2000年10月  
白石昌之、横山俊祐、武藤剛
- 10 コミュニティ住宅の計画的課題  
ー住環境整備事業の評価に関する研究(8)  
日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集 F-1、pp.543-544、2000年9月  
上之園賢一、横山俊祐、白石昌之、武藤剛
- 11 改良住宅における住み手参加型計画の特性と要因  
ー住環境整備事業の評価に関する研究(9)  
日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集 F-1、pp.545-546、2000年9月  
武藤剛、横山俊祐、白石昌之、上之園賢一

## 【その他の論文】

### ■講演

- 1 施策展開の要因と住まい・まちづくり活動への発展性から見た HOPE 計画の評価  
ー住まい・まちづくり活動の地域浸透に関する研究（1）  
日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集 E-2、pp.457-458、2000年9月  
内田真治、横山俊祐、白石昌之、武藤剛
- 2 HOPE 計画による地域主体の住まい・まちづくり活動の変容の評価  
ー住まい・まちづくり活動の地域浸透に関する研究（2）  
日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集 E-2、pp.459-460、2000年9月  
白石昌之、横山俊祐、武藤剛、内田真治
- 3 生活の開放性から見た南側通路の有効性と課題  
日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集 E-2、pp.323-324、1998年9月  
川東好史、横山俊祐、白石昌之
- 4 コーポラティブ住宅における相互浸透性に関する研究（1）  
ーMポートの屋上広場の考察ー  
日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集 E-2、pp.387-388、1995年8月  
森永良丙、延藤安弘、横山俊祐、白石昌之
- 5 コーポラティブ住宅における相互浸透性に関する研究（2）  
ーMポートの住戸近傍空間の考察ー  
日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集 E-2、pp.389-390、1995年8月  
白石昌之、延藤安弘、横山俊祐、森永良丙

## 謝 辞

本論文は、筆者の熊本大学大学院博士後期課程での研究成果を、『「地域力」醸成に向けた密集住宅市街地整備の計画プロセスに関する研究』と題し、学位論文としてとりまとめたものであります。ここに到るまで、多くの方々のご指導とご協力をいただきました。

指導教官である横山俊祐先生には、当研究室における7年間を通して、研究者、そして実践者としてのあるべき姿を学ばせていただきました。自らが納得するものをつくりあげることへの執念にも似たこだわりと、ぎりぎりまで諦めない姿勢には、日々感服させられるばかりでした。筆者の研究がここまでたどり着いたのも、横山先生から学んだ、研究者としての自覚と誇りによるものであります。特に、博士後期課程に進学してからは、我々に対して投げ掛けてくる、高い目標や理念を理解し、それにたどり着き、乗り越えることを目標に据え、研究活動を進めて参りました。今後は、そうした高い目標を自らに課すことで、自分自身をより高めていきたいと思えます。

熊本大学大学院修士課程への入学を導いていただいた、延藤安弘先生（現千葉大学工学部教授）と宮原正成先生（現崇城大学工学部助教授）にも大変お世話になりました。熊本工業大学に在学中、延藤先生の著書とコーポラティブ住宅 M ポートに出会い、生活者中心の住まいづくりの魅力に駆られ、熊本大学大学院への進学を決意した日を、昨日のことのように思い出します。熊本大学で一緒にさせていただいた日々は1年たらずでしたが、研究者としての素地や姿勢はそこで養われたと思えます。宮原先生には、私と延藤先生の橋渡しの役目を快く引き受けて頂きました。今日、こうして学位論文をまとめることが出来たのも、宮原先生のお導きによるものだと思います。何一つとしてお返しが出来ていないことが心苦しいですが、この学位論文がその一つになればと思っております。

本論文の審査にあたっては、熊本大学の両角光男先生、北野隆先生、矢野隆先生、三井宜之先生に適切なお指導を頂きました。両角先生には、学位論文の申請や審査に関する幾つもの手続きを引き受けていただき、また、研究の不備な点を多面的にご指摘いただきました。北野先生には、日頃からはっぱを掛けていただき、常に心地よいプレッシャーを与えていただきました。矢野先生と三井先生には、専門分野が異なるにも関わらず、本論文

が目指す世界を好意的に受け止めていただき、最終的に論文を仕上げる上で心強くありました。先生方のご指摘やご意見を考慮することで、論文自体の質を高めることが出来たと思います。また、学位論文の審査段階では、長期の海外出張でご不在でありましたが、博士後期課程への進学を後押ししていただいた、位寄和久先生にも大変お世話になりました。

筆者は、本論文で研究対象に取り上げた住環境整備事業以外にも、コーポラティブ住宅や公営住宅の建替事業、HOPE 計画といった、地域文脈や住民一人ひとりの個性を尊重する事例との出会いから、数多くのことを学ばせていただきました。そうしたムーブメントを引き起こしている人達との接触は、とかく、デスクワークが多くなりがちな研究活動に刺激を与えてくれました。それと同時に、新しい時代を切り開くことを命題とする研究活動と地域に根ざした実践活動を結びつける必要性を突きつけられたことも事実です。

研究室生活の中での、多くの優れた先輩や同級生、後輩の方々との出会いも、筆者に刺激を与えてくれました。とりわけ、住環境整備事業をはじめとする、住まい・まちづくり研究を共にした、武藤剛氏、内田真治氏、上之園賢一氏、山本剛氏とは、共同研究を行う中で、作業等の実質的な援助とともに、意義深い議論を重ねることができました。こうした協働作業のおかげで、本論文をまとめあげることが出来たと思います。

この7年間の研究活動は、自らに問いかける濃密な時間でもありました。特に、地域固有の豊かさや魅力はどうやって醸成され、筆者自身が貢献できることは一体何なのかを強く意識するようになりました。今後は、既成概念や通説にとらわれることなく、自らのアプローチで、そうした事象に向き合っていきたいと考えております。

最後に、私事にわたって恐縮ですが、今日まで長期にわたる学業生活に理解を示し、自由に歩ませてくれた両親、そして、ここにたどり着くまでに多大なる勇気と自信を与えてくれた人達に感謝の念を記します。

2001年3月  
白石昌之